

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年9月25日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社文月会
事業所名	グループホームこころ
所在地	鹿児島県始良市加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
自己評価作成日	平成27年9月25日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームこころの理念は「こころからの笑顔で、この地で共に生きる」です。入居者の方々がこころから「ここでの生活は楽しい」と笑顔を見せていただける様に、ケアについての研修を年間を通じて行い、「聴く」「考える」の実践をしています。不眠等や暴言等に向き合い、入居者にとってどうなのか、介護者にとっての問題ではないのか等話し合うことで視点が変わり、ケアに反映されています。地域の方々に、知恵を頂きながら、小さな畑をつくっています。家の中から畑を見て、季節を感じ、時間を感じています。畑の作り方や種のまき方、肥料のやり方、水のやり方、草の取り方、収穫の時期や収穫の仕方、それを使っての調理法など、入居者の知恵や経験を語ってもらうことも多いです。入居者の方の季節感にも役立っているようです。家族の方も関心を寄せていただけます。また、入居者の1か月の様子を毎月、お知らせしています。入居者の現実や今の楽しみ、外出の様子、できなくなった事などお知らせする事で、一緒に時を過ごして頂いております。困難になったことには一緒に考えていただく様にする事でご家族にグループホームでの生活を「迷惑をかけてすみません」と思っていたかのように考えています。ご家族も皆で生活に参加できるようにしていきたいです。また、入居者も重度化し、グループホームからの外出が少なくなっています。重度化しても、不安や孤独等を感じないような環境づくりをしていきます。また、職員は地域住民との関係も地域行事への参加等で顔見知りの関係になり、地域からの協力が得易くなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

始良市郊外、自然環境に恵まれた閑静な住宅地に建てられている当事業所は桜の名所でもある高岡公園も近く四季を感じながらの散歩に最適な環境である。早くから自治会に加入しており地域の理解と協力のもとサロンへの参加や地域行事見学、校区の小学生対象のキッズサポーター養成講座など事業所自体が地域の一員として交流が行われている。また、近隣とも日常的に野菜のおすそわけやお茶飲みなどで良好な近所付き合いがなされ、ホームの緊急連絡網にも登録をもらえるなど災害時の協力体制も築かれている。

開設して12年目となり利用者の高齢化に伴う重度化の現実はあるが、職員は常に利用者に関わり利用者主体のケアに努めている。また、本人の思いや希望を聞き出し一時帰宅、外食、外泊なども家族の協力をもらいながら個別の外出支援が行われている。

職員の離職も少なく利用者・家族との馴染みの関係が築かれて「安心して居る」との家族の評価も得られている。

管理者・職員の認知症ケアに対する研鑽意欲が高く、現状に満足することなく常に利用者の求めていることを模索している。また、他の事業所と合同で事例検討会や講師を招いての勉強会を行って専門的知識を高めるなど職員の資質の向上と更なるサービスの質の向上に努めているグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	入居者が日常生活の中で心から満足していただけるように、みんなでケアの実践に取り組んでいる。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念となっている。職員が理解して共有できるようにわかりやすい文言の理念となっており、職員の目につきやすい場所に掲示してミーティングや事例検討会等で振り返りと確認の機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流しているとは言い難いが、地域の清掃や行事には地域の一員として参加している。サロン等の開催を1か月に1回程度行っている。地域の方々と顔見知りの関係である。	町内会に加入し、職員は総会や清掃活動に積極的に参加している。また、利用者もサロンや小学校のバザー、運動会に出かけるなど地域の一員として交流がなされている。ホームは地区住民の相談の場として「介護の相談かたらい処」ともなっており相談事や野菜のおすそ分けなどで近隣とも良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	支えあい事業や小学校でのサポーター養成講座の際に、地域の方々に向けて発信している。また、相談の方に向けて支援している。一斉放送等の際は、近々の方々には紙に書いて知らせたりしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徘徊の可能性のある方への対応等運営推進会議の際に、意見をいただくことや、看取りなどに対しての意見等運営推進会議の中で話合うことがある。意見を活かしている	自治会長・民生委員・家族・行政等の参加を得て2ヶ月に1回開催している。利用者状況・活動報告等を行い、参加者からも意見や助言・情報等をもらうなど充実した内容の会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や、市町村へ制度上の疑問や対応等、電話又は直接行き連携を図っている。	運営推進会議に行政の参加があり、事業所の実情を伝えている。また、市からの委託事業や研修会等にも参加して協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針ではあるが、対象によっては、必要性が予測される場合は、回避策を考慮し緊急時やむを得ない場合は、ベット柵の使用など同意を得て使用せざる得ない場合もある。実際には、行動障害をアセスメントすることにより解決する。	ホームの方針として身体拘束を回避するケアに取り組んでおり、身体拘束廃止委員会を設置して事例検討会や勉強会を行い、職員の共通認識を図っている。日中は玄関の施錠などはせずに職員の見守りと連携でホーム前の畑にも自由に行き来するなど拘束のない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアカンファレンス等で、実際に行っている対応が虐待ではないのか検討している。自分たち介護職員の思いだけでケアをしてしまい相手は虐待と感じていないだろうか等考え努力している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の権利擁護についての学習をしている。内容が難しい。実際に利用者がないがその都度学習していきたい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者が十分に説明し同意を得ている。また、改定などの等の際も、家族に説明し同意を得ている。不安や疑問も説明の際に伺うようにし、解決できるように努力している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の代表が運営について発言される場合もある。入居者やご家族が発言された内容で介護計画の同意を求めた際に「内容で自分の親がどの様に生活しどの様にケアを受けているのかわかる」と意見をいただいた。	日常の面会時や電話連絡時等、ホーム行事の際に家族からは意見・要望を聞き出すように努めている。また、管理者不在でも職員は全家族に対応できるように情報の共有を徹底している。出された意見・要望は職員間で話し合っ て運営やサービスに反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際に、運営・ケア内容・その他で内容の検討している。例えば、おむつの使用と排泄のケアが適切になされているのか等の検討を行っている。	朝の申し送りはないが、職員は必ず個人記録と業務日誌に目を通してから業務に入るようにしており、情報の共有を図っている。また、必要に応じてミーティングを行い、問題点や意見・提案等を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については、本人の努力を反映している。誕生日休暇を作り、働く楽しみが持てる様に努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員がやりがいを持てる様に、本人と苦手な部分について話しあう等フォローにこころがけている。また、対人援助の研修等で学んだ事については実際を通してフォローアップしていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>認知症高齢者サポーター養成講座の主催をし地域の事業者に協力を得て実施している。また、同業者と合同で講師から対人援助の研修会を毎月行う等や支えあい事業を通してネットワークづくりに取り組んでいる</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が困っていることや不安な事を要望などを本人の言動から受け取れるようなコミュニケーションに努めている。語っていただける様に選ばれる様に関係づくりに努めたい</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>初回見学時や申し込み時に家族や本人の不安や要望を語っていただける様な雰囲気づくりや十分な説明等に努めている</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の援助計画について十分に納得を得る様にしている。ご家族や病院からの情報を得る様に努めている。内容についての疑問や理解を確認するようにしている</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護者が行っているケアがケアになっているのか。ご本人に意識を向けて行われているのか等考慮しながら、暮らしを共にする同士の関係を築いている。入居者それぞれの出来ることなどを尊重している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来たり、外出したりしやすいような、声かけや雰囲気づくりに努めています。また入居者の健康状態や日常生活の様子など、困難な点も知らせる様にし、現在の状態も実感していただく様にしています		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やなじみの方が面会などに来られた際は、自室で過ごされる、またはお茶の準備などして和やかに語れる場所を提供している。また、面会などの事実や内容などご家族に伝えるようにしている。	利用者の思いや希望に応じて外泊、一時帰宅、法事、墓参り等家族の協力をお願いしながら馴染みの関係継続の支援を行っている。また、家族や友人・知人の訪問の際は居室で過ごしてもらえるように配慮している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の把握に努めている。皆さんの中に入れない方でも遠巻きながらも皆さんの中に参加できるように座席の工夫など配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院し入居者の病状により退去せざるをえなかった事例でも次の居場所のアドバイスを行ったり、看取りを行ったり、家族が来られた場合一緒に思い出を語ったりしている。必要に応じて支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や日常の会話の中からお本人やご家族の意向の把握に努めている。また、ご本人が語れるような会話に努めている	「語りをうながす」ことをホームの方針としており、利用者の思いや求めているものを引き出せるように職員は常に意識を持って本人とじっくりと向き合い話を聞くように心がけて利用者との関係の構築に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、今まで暮らした環境の方々からお話を伺い、生活環境やサービスの利用の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントの際に過ごし方や心身の状態、有する力等現状の把握に努めている。ケアプランに活かせるように把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの際にスタッフから情報収集し、また、本人に伺ったり、ご家族が来所できない場合は、電話等で話し合い介護計画を作成している。医師とは外来時、ケア内容の確認をしている。	本人・家族の要望、職員の意見・提案などを反映させた介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、必要に応じて都度見直して現状に即した介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の中からお互いに情報提供し、また、話し合い、介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅を見に行く、墓参りをしたい、好きな物を食べたい等の希望や要望を支えられるよう、柔軟な支援やサービスに取り組めるよう努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努めている。民政委員やケアアドバイザー、自治会長等の協力を得、月に1回集まり、活動を通して認知症の理解を図れるように努力している。また、運営推進会議で、困難事例等学ぶ機会がある		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅で受診していた主治医を継続して受診するようにしている。家族の希望や本人の希望を大事にしている。また、必要があれば、主治医から、適切な医師の紹介も受けられる様、情報提供を行っている	入居前からのかかりつけ医となっている。ホームから受診同行しており、かかりつけ医と直接関係を築いている。また、訪問看護事業所との契約により利用者の健康管理が密に行われて本人・家族の安心にも繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1日訪問看護師が来た際に相互に情報の交換をし助言を看護師から受けている。また、訪問看護師から主治医に報告しグループホームに持ちかえるなどの連携を図っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は情報提供書の発行等を行いSMWとの面談、主治医との面談、家族との面談を行い、受け入れができる状態を相談している。関係作りは、普段より相談等を通して関係作りをしている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の説明の際や病院受診の際に同行のご家族や医師と話し合いを持ち、その時はどの様にしたいという事をお話している。また、支障をきたした時には再度、医師の助言をもとに話し合いを持っている。	重要事項説明書・運営規程に指針を明記して入居時に説明している。入居後は身体状況に応じて医師の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでも看取りの経験があり、職員も方針を共有している。消防署による普通救命講習・AEDの取り扱いなど定期的の実技を兼ねた勉強会を行って職員の不安軽減に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練ではないが、その都度必要に応じて学習している。ヒヤリハットの際に皆で共有できる様に話あって、対応能力を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域の協力が得られるように、日頃からのコミュニケーションを図ったり、体制づくりをしている</p>	<p>年3回夜間想定で自主訓練と消防署立会いの避難訓練を行っている。居室の入口に身体状況を掲示するなどの工夫もなされている。緊急連絡網に近隣も登録されており地域との協力体制も築かれている。スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。また、ホームは地域の避難場所にもなっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄に関しては配慮している。損ねるような言葉かけがない様に自室の配慮やトイレ時間、誘導の仕方等に配慮し、人格が保たれるようにしている	利用者の人格を尊重し、利用者の心情を大切にしたケアに取り組んでいる。ミーティング時に勉強会を設けたり日所の業務でも気づいたら都度注意し合うなど職員の資質の向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを言葉に変えられない方が増えてきた。相手の言動に注目し語りうながされる様に援助できる様に努力はしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等はグループホームの時間で行っているが、必要やご本人の希望があれば、優先している。朝の起床や食事時間等は本人の希望に合わせている方もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	衣類の準備などができる方は、自分で準備をしていただいたり、洗面、整容の際は、その方に合った声かけを行えるようにしている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶等は入居者同士がコップに給茶する等している。食事の準備や後片付け等徐々に力が落ちてきているができることは声かけしている。ご本人の嗜好には配慮出来る様に献立に反映している	自家菜園で採れる季節の食材をふんだんに使ってバランスのいい家庭的な食事を提供している。準備や後片付けなどできることは声かけをし、畑作りや収穫なども手伝ってもらっている。気候のいい時期は庭でお茶を飲んだり手作り弁当持参で近隣の公園や外食にも出かけるなど「食」を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医と検討の必要な方は検討している。また、水分量など脱水をきたしやすい方、自分で飲むことができない方等配慮をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず口腔ケアを行っている。口腔ケアの際の本人の技量を把握しそれに応じた、チェックや声かけを行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の自尊心を損ねない様にパターンに応じて声をかけて誘導している。出来るだけトイレで排泄できることを目標にしている	疾患や入居直後など必要に応じて排泄表を作成し「誘導」「自ら」に分けて記録するなどの排泄の自立に向けた工夫を行っている。また、職員はあえて「おむつ体感体験」をしておむつを使用しない支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に主治医と相談し排便の援助に取り組んでいる。水分や運動量、排泄の時間等に配慮し、声をかけ誘導している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間や曜日は決まっているが、ご本人の要望等があれば、必要に応じて入浴していただいている	基本的には隔日の入浴であるが身体状況や希望に応じて柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠の状況をよく知り午睡等、その人の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤について知り、痛みの状況や熱、食欲等、入居者の少しの変化に気づき、状態を共有できている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアプラン作成時に家族に協力を得られる様楽しみごとの目標を作り外出の際に実現している入居者もある。日常の今できることをできる様に支援するよう努力している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援はできてはいない。必要性があれば、墓参りや実家まで帰る、または学校行事に参加する。地域行事に参加する等の支援を家族と連携を図りながら実施している。	日常的にはホーム周辺の散歩や畑に出かけている。また、ときには地域行事見学やサロン、近隣の公園、外食などにも出かけている。重度化がすすみなかなか全員での外出が困難ではあるが個別支援や家族の協力をもらいながら外出支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を実際に自分で出すことは少なくなかったが、支払いの心配などがあったり、買い物に金銭が必要な事を口に出される等の言葉を大事にしている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙が書きたい、家族に電話をしたい、家族から電話が来るなど、入居者が必要なものを準備したり、電話のやり取りがし易い様に支援している。返信等の声かけ支援も行う。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者が場所の見当識があったり、場所がわからないなどへは声をかけてわかり易い様に説明の努力をしている。入居者がテレビなど見易い様に光の配慮など行っている。畑に季節の野菜を植え季節感が感じられるようにしている</p>	<p>自宅と変わらないような開放的で明るいリビングからは畑が見渡せ季節を感じる事ができる。さほど広くはないが食事のテーブルとテレビのソファの配置が工夫され、外を眺めながらテレビを見たりと居心地よく過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>長椅子に座り、顔なじみの方同士会話されたり、自分の落ち着く座席を決めておられる方もある。また、気の合わない人同士の場合も、気分よく過ごせる様に配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや使い慣れた椅子等自室に持ち込みグループホームでの生活が自室になる様にご家族と連携しながら調整している。	ベッドとタンスは備え付けであるが寝具、位牌、家族の写真、飾り物などが持ち込まれて居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等や車いすでも使い易い洗面所、浴室の手すりの設置場所、浴槽のふちを広くし分割動作がし易い様に配慮している。必要があれば、箆箆などへ、整理ができる様に、探し物が解る様表示がしてある人もある		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない